

日本洋書協会会報

BULLETIN OF JAPAN ASSOCIATION
OF INTERNATIONAL PUBLICATIONS

目次

・サマーパーティ2004	1
・理事会報告	2
・海外ニュース	3
・委員会報告	4
・出版文化史道通(91) 洋書の歴史雑記帳(XLVI) ...	5

JAIPサマーパーティ2004

2004年7月16日(金)

於 第一ホテル東京シーフォート

鬱陶しい猛暑の中、今年もJAIP恒例のサマーパーティーが開催されました。今回の会場は、天王洲アイルの28Fで、東京湾を見晴らし、夜景が綺麗で、素晴らしいロケーションでした。若い方々、女性会員も多数参加され、47社総勢221名に



のぼりました。会場は熱気につつまれ、司会の中山さん(丸善)の声も聞こえない程、賑やかな歓談の中でパーティーは始まりました。マーク・グresham文化厚生委員長(UPS)の「昨年は冷夏で、ビールやエアコンの会社は気の毒だったけど、今年は、猛暑で、気兼ねなく美味しいビールが飲めます。今夜は、ここで旧交を温め、新しい知己を得、歓談し美味しい食べ物、



冷えたビールやワインの飲み物、そして素晴らしい東京湾の夜景を楽しみましょう。」との英語によるオープニング・スピーチ。続いて、村田理

事長(丸善)の「200人を越える方々の参加は洋書協会が広がることにもなるし、そのような催しは、このビールパーティー位しかない。これだけの方々が洋書を扱う仕事を通じて交じり合える良い機会ですから、大いに歓談いただいて、情報交換や、商談の機会を作り、ビールやワインを飲み、素晴らしいパーティーにしていきたいと思います。」とのスピーチの後、乾杯の音頭で、一層賑やかになりました。丸善洋書部有志の方々による、サマープレゼント抽選会。当選番号が読み上げられる度に、歓声が起き、ため息が漏れ、時が経つのも忘れるほどでした。山川さん(ユサコ)の「代表権のない会長に就任され、息子の真一さんに代表を委譲された」事、「協会も若い方々の力に期待したい。」とのお話の後中締めとなり、力強い「三本締め」の発声をいただきました。「活気があってよかった。」「賑やかで楽しかった。」との声も聞かれる中、三々五々散会となりました。(文化厚生委員会 NH 記)



理事会報告

7月26日(月)

- ・関西懇親パーティーの概要が報告された。内容は関西会員、東京地区会員の関西拠点のスタッフ、及び会員外の同業者による懇親会とし、規模として50～60名程度。主催は文化厚生委員会。会員の出席をお願いする。

- ・以下の委員会報告を承認した。

(1)広報委員会

7月9日(金)にアカデミーヒルズ六本木ライブラリーのセミナー＆見学会を行った。50名が参加。内2名は会員以外。

(2)ダイレクトリー委員会

現在有料のダイレクトリーの印刷部数を増やして、無料で大学等含めて配付したらどうか。効果はあると思う。広告収入を増やす方法は別途考える。との意見に対して、製作費等の資料を委員会

で検討のうえ、理事会に諮ることとした。

(3)神保町本まつり

時期は10月30～31日。8月から申込み受付。現在連絡待ち。事業委員会と事務局で対応する。

またTIBFに於けるバーゲンでの問題点は、JAIPも主催者団体の一つなので、実行委員会で事務局と一緒に交渉することとした。

- ・事務局から以下の報告があった。

(1)特別理事会の記録のドラフトが出来たので、各理事の校正をお願いする。

(2)若手会議を8月5日に行う。

(3)会費のシミュレーションは前回会費を決めた際使用した会員データ(売上、従業員数、資本金)を使って行う。

(4)事務所移転は8月いっぱいでは場所を決定出来るように探している。

事務局からのご案内

関西懇親パーティー

日時：9月3日(金)午後6時30分～

場所：新阪急ホテル2階<月の間>

大阪市北区芝田1-1-35

06-6372-5101

会費：一人3000円(会員以外は4000円)

締切は過ぎておりますが、前日午前中まで受け付けます。事務局までご連絡ください。

【主催：文化厚生委員会】

第14回神保町ブックフェスティバルのご案内

来る10月30日(土)・31日(日)に開催される神保町ブックフェスティバルに協会として初参加することになりました。参加希望者は事務局までご連絡ください。参加費はワゴン1台あたり35,000円です。詳細は追って連絡いたします。

【主催：事業委員会】

会員短信

会員各社のちょっとした話題を掲載します。ダイレクトリーの記載事項変更なども受け付けます。なるべく直近の会報に掲載いたしますので、事務局宛メール、FAXでお寄せください。

会報委員会

第45回 麻雀大会

から梅雨、連日真夏日の続いた7月9日（金）夕刻、暑気払いを兼ねて第45回麻雀大会が東京駅八重洲北口前の雀荘中信にて開催されました。

久しぶりに参加の辻さん（OUP）、原さん（原書店）、Blackwellの三谷さん等初参加もあり、20名（14社）と多彩の顔触れで賑やかな会になりました。

優勝は毎回参加の和田さん（大洋交易）の頭上に輝きました。

和田さんは最近左肩骨折のアクシデントに遭われたとか、その傷もほぼ全快され、優勝を喜んでおられました。

ご本人は“厄落としも済み、これからは仕事も遊びも上向きと確信しての第一段が役満貫（国士無双）を含む大量の得点で、三年前の優勝と一味違う喜びです”とご満悦のスピーチでした。

時間を長めに、ゆったりとした親睦大会で午後10時半に散会しました。

入賞者は以下の通りです。

優 勝	和田 茂（大洋交易）	+ 114 点
準優勝	西野 久雄（三友社）	+ 65 点
第3位	村山 新吾（ゲーテ書房）	+ 35 点

尾崎（エイビス）記



フォーティラブ（テニス同好会）2004夏合宿

とき：2004年7月24日（土）

ところ：南浦和ローンテニスクラブ

先日の7/24（土）、炎天下の中、南浦和ローンテニスクラブにてフォーティラブテニス合宿を開催いたしました。参加者は19名（14社）、下は20代前半から60代まで暑さに負けずみなさん最後までテニス三昧を楽しみました。終わったころにはいい感じの日焼け

あとが残ったようですが。テニス終了後、南浦和駅前の居酒屋にて前JAIP高橋事務局長の慰労会及び打ち上げも盛大に行われました。

次回は10月に開催予定です。皆様のご参加お待ちしております。
（株）東亜ブック・鶴竜次記



◆… クリントン対ガスコイン

英国の一般書籍市場では、ビル・クリントンの回想録 My Life (Hutchinson) が、ポール・ガスコイン (サッカーの元イングランド代表選手) の回想録 Gazza: My Story (Headline) と売上合戦をくりひろげている。先週のベストセラー・リストでは、Gazza が 400 冊の差で首位を保った。Headline の出版元 W.H. Smith は、今週末までの期間限定で 10 ポンド割引セールをチェーン書店で行うなどの販売活動を行っている。

Gazza の売上は、6 月 18 日の発売から現在までで約 22 万 5 千部に昇り、ヒラリー・クリントンの自伝 Living History (昨年 7 月刊行) の 20 万部を上回っている。

Publishing News (PN Online) JULY, 2004

◆… Comic-con 盛況

毎年恒例の Comic-con (コミックス愛好家の大会) が開催された。一般のファンや業界関係者が集い、グラフィック書籍、コミック本、映画、グッズなどが販売された。正式な数ではないが、約 10 万人ものファンがこの週末に集まり、この参加者数は昨年の 7 万人を軽く突破した。

今年最も注目されたのは、引き続き好調な manga (日本製コミック) であろう。一般書店などでも、アニメ、ライセンスを得て上映される映画、そして提携して販売される多数の書籍や商品群が需要を伸ばしている。manga 自体の売上も、当然増えている。Tokyopop のように、年間約 450 タイトルもの新刊を出版する出版社もあり、これらはチェーン書店で販売されている。Comic-con でも、Tokyopop、Viz、Dark Horse などのブースには多数のファンが詰めかけ、新刊やデジタル版 manga などを買って求めていた。新興出版社のなかには manga 版 ノンフィクションの新刊

リストを発表しているところもある。

大手出版社も出展しており、新刊グラフィック・ノヴェルを宣伝するだけでなく、新しいプロジェクトのための作家やアーティストを募集したりもしている。Scholastic の新しいグラフィック本インプリント Graphix を立ち上げ、ファンタジー・アドベンチャーのシリーズ刊行を計画している。Disney Worldwide Publishing は大きなブースを構え、米国で刊行開始した新しいシリーズ W.I.T.C.H. を宣伝した。

Harper は Terry Moore が自費出版したグラフィック・ノヴェルのシリーズ Strangers in Paradise のトレード版を、今年 10 月から刊行する。

大会で話題になった本のひとつは、Image Comics から出たフルカラーの豪華なアンソロジー Flight で、これには 20 人以上の若手漫画家の作品を網羅している。もうひとつは、Jeff Smith の Bone シリーズ 9 巻を、1300 ページの 1 巻本として自費出版した本 (hardcover および Paper 版) だった。どちらも大会の話題の中心となり、会期中に売りきれてしまった。

PW NewsLine JULY, 27, 2004

< 提供: 丸善洋書部 >

◆… 「英国メディア大手「ピアソン」黒字 4 億円」 (日経産業新聞 7 月 29 日付け)

フィナンシャル・タイムズを傘下に持つ、ピアソンの 2004 年 1 - 6 月期決算が発表された。税引き前利益が 200 万ポンド (約 4 億円) となり、前年同期の百万ポンドの赤字から改善された。

主力の教育事業の販売が前年並みと伸び悩み、出版事業も大幅減益となったが、コスト削減効果や広告市況の改善で新聞事業がその穴を埋めた。新聞事業の営業利益は 5 千 5 百万ポンドと 36 % 増えた。売上高の五割強を占める教育事業は前年同期と同水準の 2 千 6 百万ポンドの赤字だった。高等教育向けの販売は好調だったが、初中等教育向け出版は、販売が伸び悩み、出版事業は 15 % の減益であった。

< 提供: ユサコ株式会社 >

(協会ウェブサイトで転載)

洋書の歴史雑記帳〔XLVI〕ドイツ学術受容の歴史(9) 鈴木 陽 二

ケンペルの来日(2)

前回『オックスフォード英語大辞典』に入った日本語語彙の原典として、ケンペルの『日本誌』が極めて重要な文献であることを述べた。日本の文化史にとって本書の重みを示す一例として、この点をもう少し述べて見ることにしたい。

東京成徳英語研究会編『西洋の日本発見—OEDに見られる日本語—』は、表題のとおりOEDに入った日本語を克明に調べて分析し論述しているが、それによるとOEDにおける日本語見出しで『日本誌』(1727)を採録文献として使った語彙は48語で、その中で同書を初出原典としたのは43語だという。この数は“OED2 & Additions Series”における日本語見出し457語中最も多く、OED編集上『日本誌』が日本語語彙の初出原典として重要視されていた様子を見ることができる。同時に、西洋人の日本文化理解のうえで、本書が基本的文献であったことがわかる。

ちなみに、OEDにおける最も年代の古い日本語見出しはKuge(公家)で、ケンペルからの引用例もあるが、1577年刊行のリチャード・エデン著『東西インドおよびアジア・アフリカ諸国の旅行史』を初出原典としている。ついだが、本書によればイギリス人の日本来航が16世紀後半にはすでに行われていたことが記述されているが、日本側の公文書にも1564(永禄7年)と1580(天正8年)にイギリス人が通商を求めて来日したことが記録されている。16世紀後半と言えば、室町幕府末期で織田信長が天下布武に向けて東奔西走していた時代で、ウィリアム・アダムスが日本に漂着した1600(慶長5年)よりも30年ほど前だった。大航海時代末期、イスパニア・ポルトガルに対抗する新教国イギリス(オランダも)の海外雄飛の波が、日本にもひたひたと寄せていたということになる。OED収録の日本語の件でもう一つ、平戸のイギリス商館長リチャード・コックスの日記1615~1620からも、ケンペルより古い初出例として9語彙採録されていることを付記しておこう。

さて、ケンペルの原著がいつ日本に入ってきたのか、その輸入の歴史を瞥見して見よう。新村出によると、ケンペルの『廻国奇観』は寛政年間(1789~1800)には所蔵者があったことを大槻玄沢や木村蒨葭堂が記

しているという(『続南蛮伝記』)。これと関係があるかどうか分らないが、『解体新書』の訳者の一人で若狭の蘭学者中川淳庵がスエーデンのトゥーンベリーから『廻国奇観』を2度送ってもらっており、それに対する礼状が残っているという。トゥーンベリーは、ケンペルの後任の商館付医師として1775(安永4年)に来日したとき『廻国奇観』を持参し、桂川甫周や淳庵に医学や植物学を伝授しているので、淳庵が本書を取り寄せたのはその縁によるものだったろう。

『日本誌』は、三浦梅園『帰山録』によると、彼が1778(安永7年)に長崎に遊学したおり通詞吉雄耕牛の蔵書の中に見たという。これはオランダ語訳の第2版(1733)で、後に1782(天明2年)には平戸藩主の松浦静山侯の手に渡った(『続南蛮伝記』)。本書には付箋があって、それには静山侯が入手した経緯を漢文で墨書している。なお静山の蔵書の中には、1729年刊行のフランス語版も見ることができる。『日本誌』の最も早い輸入の事例としては、『帰山録』より50年も前にオランダ商館が館員の学習用に取り寄せていたという。それ以外にも度々輸入されていたようで、例えば、幕末の著名な北方探検家で書物奉行にもなった近藤重蔵(正斉)が長崎奉行配下だった時に購入しており、その本は渡辺華山や桂川甫賢なども借りて読んだという。肥後の朱子学者松崎慊堂は『廻国奇観』『日本誌』の2書を近藤正斉より購入し、また大阪の町人学者山片蟠桃は7両もの大金を出して求めたという。また島津斉彬も合計5冊、幕府も2冊購入したことがわかっている。

静山侯の洋書コレクションは、「楽蔵堂文庫」として今でも見ることができる。静山が1782(天明2年)から1792(寛政4年)頃までの10年間ほどに集めた洋書は17~18世紀に刊行された蘭書で、『平戸藩楽蔵堂蔵書目録』『新增書目』他に66部163冊がリストされ、そのうち59部136冊の現存が確認されている。この時代の洋書輸入を調べるうえでの一次資料として、極めて貴重な目録である(松田清「松浦静山旧蔵洋書書誌」)。(参考文献:ヨーゼフ・クライナー『ケンペルの見た日本』/小堀桂一郎『鎖国の思想』/国立民族学博物館『ケンペル展目録』)

(元丸善・本の図書館長)

Global Oriental Ltd.

日露戦争勃発100周年記念リプリント・コレクション

《当時の報道、記録、証言、史料、論評など貴重な文献を基に日露戦争を検証する》

在庫

日露戦争 1904-5 《全8巻》

The Russo-Japanese War, 1904-5

Compiled and introduced by Ian Nish,
London School of Economics and Political Science

2003年 2937 p. ISBN 1-901903-06-0
全8巻 ¥240,975 税込 (本体¥229,500)



- VOLUME 1** Introduction by Ian Nish
Selected papers and documents
compiled and edited by Ian Nish
PART 1: ORIGINS OF THE WAR
PART 2: THE COURSE OF THE LAND WAR
PART 3: THE NAVAL CLIMAX
PART 4: PEACE-MAKING AND THE AFTERMATH
PART 5: BOOKS REPRINTED IN THIS COLLECTION
- VOLUME 2** HAMILTON, Sir Ian – A Staff officer's Scrap-book during the Russo-Japanese War.
Vol.I : London, Edward Arnold, 1905. 432pp.
- VOLUME 3** HAMILTON, Sir Ian – A Staff officer's Scrap-book during the Russo-Japanese War.
Vol.II: London, Edward Arnold, 1907. 432pp.
- VOLUME 4** BARING, Maurice – With the Russians in Manchuria. London, Methuen, 1905. 198pp.
- VOLUME 5** REPINGTON, Charles a Court – The War in the Far East. London, John Murray, 1905.
656pp.
- VOLUME 6** ASHMEAD-BARTLETT, Ellis – Port Arthur. The Siege and Capitulation.
London, W. Blackwood & Sons, 1906. 528pp.
- VOLUME 7** POLITOVSKY, Eugène S. – From Libau to Tsushima: A narrative of the voyage
of Admiral Rojdestvensky's fleet to Eastern seas, including a detailed account of the
Dogger Bank Incident. Trs. Major F.R. Godfrey. London, John Murray, 1906. 308pp.
- VOLUME 8** SEMENOFF, Captain Vladimir – The Battle of Tsushima Between the Japanese and
Russian Fleets, fought on 27th May 1905. / Trs. Captain A.B. Lindsay, London, John
Murray, 1912. 166pp.
Combined with IGNATYEV, Lieutenant-General A.A. - A Subaltern in Old Russia.
Trs. with footnotes by Ivor Montagu. London, Hutchinson & Co., 1944.
Part II (pp.153-288) - The Russo-Japanese War. 135pp.

日露戦争報告記事：英国タイムズ新聞社特派員による史上初の無線通信

Reporting the Russo-Japanese War, 1904-5

Lionel James's first wireless transmissions to *The Times*

By Peter Slattery 2004 168 p. 16p b/w plates ISBN 1-901903-57-5 ¥8,033 税込 (本体¥7,650)

日本総代理店 **United Publishers Services Ltd.**

〒140-0002 東京都品川区東品川 1-32-5